

きょうと福祉倶楽部だより 2023年 第11号

ヘルパー研修報告



今回の研修は『僕のコーチはがんの妻』の著者 藤井 満さんをお招きして、実体験をお話していただき、ヘルパーからの質問にも答えていただきました。つらい闘病生活の日々を受け止め乗り越えてこられた。貴重なお話をありがとうございました。



・大変貴重なお話の数々でした。
ご夫妻のお話のキャッチボールがまるで、つい先日あった出来事のように存在感をもって心わしづかみでした。家族を失う喪失感は、体験した人なら理解しうる言葉ではつむげないやりきれなさや、悔しさもあり、何年経っても、何を見ても、何かを思い出してしまうものかと思えます。
もっとあの時こうしていたら…こんな話もしておきたかったな…など。今、この瞬間をいかに大事にすることを考えさせられた時間でした。

・藤井さんの話を聞いて、最後まで在宅でとなると家族やまわりの支えが大事なんだと思いました。最初の先生との出会いが大切で在宅にしてからもヘルパーや訪看や先生、友人のかたと一緒に過ごされた奥様は幸せだっただろうと思いました。好きな場所、好きな人たちに囲まれて最後の時を迎えることができるなんて素晴らしいことだと思いました。ヘルパーの存在も意外と大きいのだなと思いました。

・大切な人を看取る。という経験をされた藤井さん。本を読ませて頂き仲の良い夫婦、友達（親友）のようなお二人だったように思いました。私にも大切な人はいます。失うなんて考えられません。けれど、現実にかかることも知れません。寄り添い生きてこられた、これからも奥さんのレシピを作って思い出を心に生きていってほしいです。

・藤井さんのお話の中での『大きな病院は数値しか見てない』この言葉が印象的でした。無機質な空間より生活のにおいがする在宅を選ばれたのは仲の良い夫婦の証だと思います。残されるご主人のことをしっかりと考えられるのはすごいことだと思いました。

・良い医者に巡り会うまでが大変だと改めて思いました。セカンドオピニオンは勇気がいることだけど必要な事だと。がんの診断を受けたとき、余命宣告をされたときのお二人の気持ちは想像できないくらい辛く悲しいものだったと思います。でも悲観せずに『1日1日を大事に生きる』こと『その瞬間を大切にすること』に重きをおいて過ごされたとの事で、私も日々後悔の無いように、あたりまえの時間を大切にしたいと思いました。また、ヘルパーの存在の大きさも改めて実感できました。今後も胸を張ってこの仕事を続けていきたいと思っています。

・『しんどい時でも楽しい瞬間があり、一番しんどい時でも笑える時がある』という話が心に残りました。在宅で最後を迎えることの意味が分かって良かったです。

